

留学先国名 : ニュージーランド

留学先学校名 : オタゴ大学

留学期間 : 平成 27 年 2 月 2 日 ~ 平成 27 年 11 月 9 日

1. 留学中の生活

交換留学先のオタゴ大学は、ニュージーランドの南島にあるダニーデンという町にあります。ダニーデンは南島で 2 番目に大きい都市ではありますが、大阪と比較すると、結構な田舎町で、海や山に囲まれた環境でした。

留学中は、同じ大学に通う学生たちと「フラット（シェアハウス）」で暮らしていました。女 4 人、男 2 人で、アメリカ、カナダ、オランダ、フランス、ニュージーランドの学生達と私という、かなり国際色豊かなメンバーでした。週末に一緒に海へ出かけたり、レストランにご飯を食べに行ったり、旅行に行ってみたり、リビングでゲームをしたり、家族のような関係で過ごしていましたし、実際、お互いのことを家族と呼び合っていました。大都会ではなかったのも、特にすることもなかったこともあり、とても親密な関係になれたのではないかと思います。

オタゴ大学では、関西大学での専攻である社会学を中心に、授業を履修していました。各学期、4 科目を履修し、週 12 時間の授業がありました。平日は、大学に行き、授業が終わるとそのまま図書館で予習や復習、課題をして、なるべく休日を自由時間にできるように、且つ授業についていけるように工夫をしていました。また、留学中にサーフィンや登山を経験し、その経験から、サーフィンや休日のハイキングが趣味になり、時間があるときは友人と趣味に一生懸命にやっていました。

2. 留学の成果

私がこの留学をしようと思った目的は大きく分けて 2 つありました。1 つは英語の語学力の向上、もう 1 つは、自分の学習したかったテーマがニュージーランドで学べそうだったからです。

まず、留学による英語力の向上。この目的は、私の「日本のメーカー系の企業で働き、日本製品の素晴らしさを海外に届けたい」というかねてからの目標のために、英語は最低限必要なツールと考えていたことに起因します。特にスピーキング力の向上を目指していました。この留学を通して、英語力は格段に向上したと思います。留学前はスピーキングを苦手としていて、日常会話でも詰まったりしていましたが、日本への帰国前には、クラス内で自分の意見を発表するのに困らない程に話せるようになりました。振り返ってみると、自分で自分の成長をすごく感じられ、さらに自信を持って話せるようになりました。

2 つ目の、テーマ学習は、出来た点、出来なかった点があります。「ニュージーランドにおける特有文化、そして、その後の西洋文化の流入プロセス」を知りたいと思い、ニュージーランドの先住民であるマオリの文化や、現在のニュージーランドの社会学、グローバリゼーションにおける西洋文化の影響、といった内容の授業を履修していました。マオリ文化の授業や、マオリダンスの授業を履修し、ニュージーラ

ンド特有であるマオリ文化については、かなり深く学ぶことができました。しかし、ニュージーランドへの西洋文化の流入プロセスに関しては、直接的に学ぶことはできなかったと思っています。ですが、グローバル化下での西洋文化の流入プロセスや、ニュージーランドにおけるイギリス入植の歴史などを学べたので、今回の留学を通して、その核心に近づくことはできたのではないかと思います。

3. 留学で得たこと、それをこれからどう活かしていくか

私がこの留学を通して得たと思うことは、大きく分けて3つあります。まず、異文化に関する理解力、自発的・積極的な行動力、そして英語力を含めたコミュニケーション力です。

まず、異文化に対する理解力です。留学期間を通し、多国籍な友人たちと暮らし、日々を過ごしていました。その中で、自分の当たり前は当たり前ではないということ、様々な価値観が存在していることを学びました。宗教や社会問題への意見、恋愛観、家族の在り方など多くのことについて友人たちと語り合う中で、たくさんの価値観に出会いました。そういった環境で、価値観の多様性を肌で感じ、私とは異なった価値観を持った文化を認められるようになりました。そういった意味で異文化に対して理解力がついたと思います。この力が、先述した「日本のメーカー系の企業で働き、日本製品の素晴らしさを海外に届けたい」という夢のもと、海外で仕事をしたり、異文化を持つ人と出会った際に、相手の文化を理解できることは、仕事を円滑に進めていく上で活かせると信じています。

次に、積極的に自分から行動ができるようになりました。ニュージーランドに着いたとき、私は1人の知人もいなく、1人きりでした。日本では、受容的でも、誰かが自分に何かをもたらしてくれる環境でした。しかし、ニュージーランドに1人で暮らしていると、なにも出来ないと思って何もしないと、本当にそのまま何も起こらなくなってしまうのです。決して大きなことではないですが、大学のジムで、学生を誘いバレーボールを一緒にして友達作りをしたり、授業の中で手を挙げて質問をしたり、旅行を友人に企画し説得したり、日常の小さなことを自発的にできるようになりました。社会に出て、仕事をしていく際に、自ら考え行動し、会社の役に立てるような人材でありたいと思います。

最後に、コミュニケーション力です。私にとって英語でものごとを伝えることは、日本語で伝えるより難しいことでした。日本語では、考えながら話を組み立てていても、相手の人に理解してもらうことは可能です。しかし、私の英語力では、日本語と同じように相手に意見を伝えることができませんでした。そこで、だからこそ、相手によく伝わる方法で話すこと（書くこと）を学びました。結論から伝える話し方（書き方）や、ポイント→理由→例→ポイントのような話し方（書き方）をするように心掛けました。また、以前は人見知りでしたが、留学を通して、初対面の人とも気軽に話せるようになりました。この留学を通して得たコミュニケーション力を活かして、海外での仕事でも、上手くコミュニケーションをはかり、会社の役に立てるようになります。

4. これから留学に行く人へのアドバイス

私が留学中に大切にしていたことは、「lame」にならないことです。「lame」は英語でcoolじゃないという意味です。簡単にいうと、勉強“ばかり”しないで、色々なことに挑戦するという風に決めていました。「勉強“ばかり”」と書いたのは、勉強をすることは大切だし、留学の目的の一番大きな部分のため、勉強は絶

対にしないといけないからです。しかし、勉強ばかりしていて、友人と過ごしたりする時間を大切に出来ないのでは、結局日本に居ても変わらないではないかと思うのです。留学中は、すこし目を向ければ、チャンスがそこら中に転がっています。私は勉強することも大切だけれど、色々な国の人たちと関わり、たくさんの時間を一緒に過ごし、たくさんの価値観に触れることも同じくらい大切だと思っています。友人は、自分が今まで知らなかったような自分の一面を引き出してくれたり、様々なことを教えてくれたりしてくれます。